

富士見の歴史講座 第四回 平成25年6月22日(土)10:00~12:00

## 「振武軍」と「飯能戦争」

飯能市郷土館 学芸員 尾崎 泰弘氏

報告： H. S.

歴史好きな人が多くいらっしゃるようで、今回も54名の方が受講されました。講座提供側としましては大変に嬉しく思います。

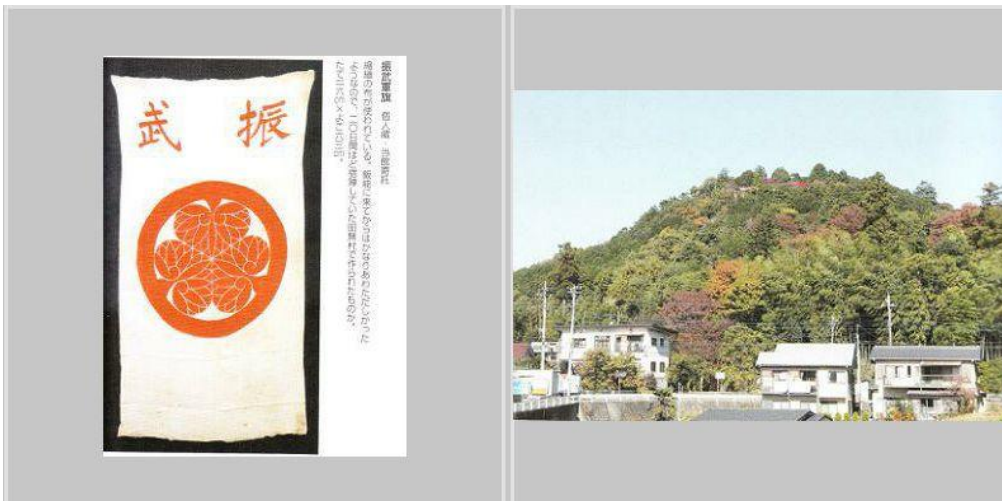
今日のテーマ「振武軍と飯能戦争」は、慶応4年(1868)の出来事で、特に飯能戦争は旧暦5月23未明に笹井村で開始した戦闘で、午後三時には新政府軍に軍配が上がり振武軍は敗退しました。一日には満たない戦闘で、両軍を併せても1,000人ぐらいの規模という。このような規模でありながら戦闘で焼失した軒数は200戸(全体戸数の44.5%)・・・飯能村では94軒焼失(全体戸数の53.4%)・・・という被害。戦闘前の田無での軍用金の調達に4,000両を超えるそうです。村としては大変な損害です。

慶応3年(1867)10月14日徳川慶喜が大政奉還、慶応4年(1868)正月3日鳥羽・伏見で薩摩・長州藩兵と旧幕府軍が衝突。これが緒戦となり全国規模の内乱が展開した。飯能戦争もそのひとつ。

<<受講風景>>



<<振武軍の旗と羅漢山(今の天覧山)>>



以下は、講師の方が、リアルに話されたことを思い出して頂けるよう、地図関連の資料を抜粋しておきます。

<<新政府軍の行軍ルート>>



↑○印・・・新政府軍の備前（岡山）藩が飯能に行軍途中、南畑村で彰義隊の残党が賊徒しているのを聞き、召し捕らえ斬首。これが錫杖権現の地で処刑。そのための供養塔が興禅寺境内に造られた。・・・報告者が郷土富士見検定問題集の解説欄からピックアップしました。



<< 笹井村から中山・飯能村までの新政府軍の進路 >>



<< 飯能の「町」における戦いとその被害 >>



<< 飯能戦争後の旧幕府方兵士の逃亡先 >>

